

2014 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2014 年 10 月 21 日（火）～23 日（木）

懇親会

第 3 日（10 月 23 日）

午前：口頭，ポスター

午後：口頭

2. 会 場

福岡国際会議場

福岡市博多区石城町 2-1

<http://www.marinemesse.or.jp/congress/>

5. シンポジウム

大会第 2 日（10 月 22 日）の午後に開催予定です。
テーマは「惑星大気研究の最前線」です。

3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。

6. 懇親会

大会第 2 日（10 月 22 日）の夕刻に、福岡サンパレスホテル&ホールにて開催予定です。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（10 月 21 日）

午前：口頭

午後：口頭，ポスター

第 2 日（10 月 22 日）

午前：口頭

午後：授賞式，受賞記念講演，シンポジウム，

7. 大会ウェブサイト【2014 年 6 月 3 日（火）開設予定】

本大会では、大会ウェブサイトを、2014 年 6 月 3 日（火）より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては、こちらをご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会ホームページ（<http://www.metsoc.or.jp/>）をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加手続き

「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵便振替による申込を受け付けます。

なお、大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：2014 年 7 月 1 日（火）15 時（日本時間）
- ・大会ウェブサイトを参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います（前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい）。この ID とパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申

込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。

- ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を
支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一
つのIDで、講演者の異なる2件の講演申込を行う
ことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行って下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込み締め切り(7月1日(火)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 郵便による申込【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2014年6月24日(火)(消印有効)
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
- ・以下の4点を講演企画委員会事務局(下記)まで電子メールまたは郵送にてお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿(電子メールの場合はPDF形式)

② 講演者氏名(漢字とローマ字)、所属、所属略称、会員番号、発表形式、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワード、参加種別(講演者A/講演者B)、懇親会(参加/不参加)、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)

③ 郵便振替払込受領証またはそのコピー(次項参照)

④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書(フォーマットは以下に記載)

http://www.metsoc.or.jp/E/msj_copyright.pdf

送付先(電子メールの場合)：

kouenkikaku2014a@mri-jma.go.jp

(件名に「講演申込 2014a」と明記して下さい。)

送付先(郵送の場合)：

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)

・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。

一口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

①「2014年度秋季大会参加申込」と明記

②会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)

③大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)

④大会参加費金額

⑤懇親会費金額

⑥合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却しませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2014a@mri-jma.go.jp)までご相談下さい。

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2014年8月19日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済のみ）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

2.2 郵便による申込【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2014年8月12日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。

一口座番号は「00130-3-5958」,

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2014年度秋季大会参加申込」と明記
- ②大会参加種別（聴講者）
- ③大会参加費金額
- ④懇親会費金額
- ⑤合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担をお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金でお支払ください（当日料金は前納と比べて割高となりますのでご注意ください）。

3. 参加費、懇親会費

3.1 大会参加費

- ・大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- ・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- ・講演件数が2件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

- ・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	4,000 円	4,500 円

- ・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することができます。期日までに懇親会費の払い込みが済まされない場合は、前納による参加登録は無効となります。当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- ・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- ・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更は行いません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどはありません）。
- ・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。
- ・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただけると、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

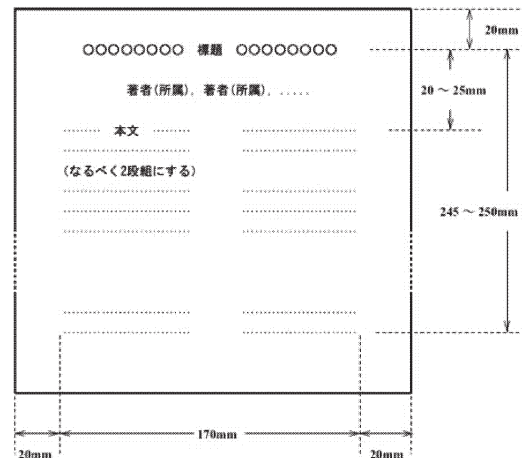
4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に

＊をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。

5. 著作権

大会予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（公社）日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

Ⅳ. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（スペシャル・セッションを含む）とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご

了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. スペシャル・セッションの概要

- ・セッションの各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は 7 月 1 日（火）、郵送申込は

6月24日(火))です。

- ・セッションに申し込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、当該セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。
- ・セッションに申し込まれた発表が、世話人によって当該セッションに適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各セッションの詳細につきましては、「V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは縦210 cm×横90 cm程度です。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表(スペシャル・セッションを含む)につきましては、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PCプロジェクターの使用に当たっては、以下の点に留意して下さい。
ーパソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。

ーセッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。

ー突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」9月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では以下の11件のテーマでスペシャル・セッションが行われます。

1. 「大気-陸面間の水・エネルギー・炭素フラックスに関する最新研究2014」

趣旨：大気境界層の中で発生する様々な現象には地表面からの水・熱・炭素循環(WEC 循環)が本質的な役割を果たしている。そのため、これまで世界各地にフラックスタワーが構築され、WEC 循環の時空間変動が明らかにされてきた。各種フラックスの観測値は実況監視の用途にとどまらず、リモ

ートセンシングや全球・領域モデルの検証データとして使用されている。このことから、地上観測-リモートセンシング-数値モデルの相互補完の関係はWEC研究において特に強いといえる。しかしながら、分野横断型の研究課題が多いためにWEC循環を扱う研究者が一同に会する機会は豊富ではなかった。

本分科会は、WEC循環に関する観測・モデル・リモートセンシング研究について情報共有や新たな課題の創出を目的とする。昨年の秋季大会に行った「フラックス最新研究 2013」では気象学を専門とする研究者の他、農業気象学や生態学といったバックグラウンドを持つ多くの研究者からホットな話題を提供していただいた。本年も昨年に引き続き、フラックス研究に日頃携わる大学院生、若手研究者を中心に対象スケールや研究手法を問わずに最新の研究についての講演を募り、研究動向や今後の方向性を情報交換する機会としたい。

世話人：吉田龍平（東北大院理）、佐々井崇博（筑波大生命環境）、小谷亜由美（名大院生農）

2. 「高速スキャンレーダーによる激しい大気現象の観測：現状と将来展望」

趣旨：近年、竜巻・局地的大雨・落雷といった激しい大気現象による災害が報告されている。たとえば2012年5月6日につくば市周辺で発生した竜巻は1名の死者を出した。これらの現象は積乱雲によってもたらされ、しばしば短時間で急発達する。これらの現象のメカニズムを解明し、探知・短時間予測を実現されるためには、従来のレーダーよりも観測間隔の短い高速スキャンレーダーが必要である。本スペシャルセッションは、最近よく取り上げられている高速スキャンレーダーに焦点を当て、最新の観測技術、事例解析、さらに運用について情報交換を行うことを目的として、以下のテーマを取り上げる。

- (1) 高速スキャンレーダーに関する最新技術：フェーズドアレイ、セクタースキャン、レーダーネットワーク等
- (2) 高速スキャンレーダーによるこれまで捉えられなかった積乱雲の発生発達・内部構造など様々な事例解析
- (3) 雲内の放電3次元分布など、高速スキャンレーダ

ーで得られた積乱雲の3次元全体像と他の観測データとの組み合わせによる更なる発展性

- (4) 高速スキャンレーダーで捉えた激しい大気現象の探知・短時間予測・データ同化の爽籟計画

世話人：楠 研一（気象研）、牛尾知雄（阪大）、佐藤晋介（NICT）

3. 「南岸低気圧による大雪：その要因、実態、予測可能性」

趣旨：2014年2月8日から9日、そして2月14日から16日にかけて、急速に発達する南岸低気圧の接近に伴って関東甲信地方を中心に多量の降雪がもたらされた。特に後者の事例では観測史上の最深積雪を大きく上回る積雪が観測され、記録的な大雪となった。このため、山梨県全域が一時陸の孤島になり、交通障害、通常積雪のほとんどない地域でアーケード等の損壊、人身被害が多く発生した。

この記録的な大雪の要因としては、ブロッキングによる低気圧の動きの遅さ、南からの多量の水蒸気の供給、下層の低温の維持が指摘されている。南岸低気圧に伴う降雪は珍しくないが、これほどまで顕著な大雪になったのはなぜか、メソスケールの降水・降雪系や環境場、降雪粒子にはどのような特徴があり、どのような特性の積雪になったのか、何が大雪につながる要因として重要なのか、そしてそれらは予測可能なのか。これらの課題について、調査結果を一堂に集め、全体的な共通認識を持つための議論をする場としたい。2014年の事例に限らず、南岸低気圧による降雪全般についての話題提供を歓迎する。

世話人：中井専人（防災科学技術研究所）、荒木健太郎（気象研究所）、前多良一（気象大学校）

4. 「放射観測による気象学・気候変動研究の進展」

趣旨：気象学および気候変動研究における放射観測の目的は、大きく二つに分けることができる。一つは、大気・地球表面の放射エネルギー収支を評価することであり、もう一つは、放射観測を利用して、気温、水蒸気、雲、エアロゾルおよび微量気体等の大気に関する情報を得ることである。現在では、地上、船舶、航空機、人工衛星など、様々なプラットフォームから観測が行われている。放

射観測に用いる波長も紫外域から可視、赤外、マイクロ波にまで及ぶ。取得されたデータは放射計算を用いた解析のみならず、数値予報モデルにおけるデータ同化や気候モデルによる計算結果との比較、あるいは植物生態学における光合成の評価まで多様な分野で利用されている。また、新しい放射計や校正手法の開発により技術面においても進歩している。本セッションにおいては、放射観測が気象学および気候変動研究に対してどのように貢献してきたのか振り返り、また、今後の展望について議論する。

世話人：早坂忠裕（東北大学）、大河原望（気象庁）、高村民雄（千葉大学）、内山明博（気象研究所）、三枝信子（国立環境研究所）、藤谷徳之助（国立環境研究所）

5. 「防災気象情報」

趣旨：防災情報、防災気象情報とは何であろうか。近年、科学技術の進歩と災害の教訓などによって、防災情報も気象情報もめざましく高度化し、多様化してきている。

また、社会的なニーズの高まりを受け、気象庁や日本気象予報士会をはじめ様々な機関が、小学生から高齢者まで様々な機会をとらえて、気象講座や防災気象啓発に盛んに取り組み始めている。

このような情勢の中、このセッションでは、様々な立場から、災害時にどのように気象情報が利用されたのか（または、されなかったのか）といった事例や防災気象情報の教育啓発活動の取組事例などを発表していただき、その活用事例や課題等を明らかにするとともに、防災気象情報のより適切な利用や伝達、並びに防災啓発や防災教育に必要なこと（伝えるべきこと）などについて議論を深める機会としたい。

世話人：岩田 修（日本気象予報士会）、金崎 厚（日本気象予報士会）、弘中秀治（宇部市役所）、永田統計（日本気象予報士会）、中尾克志（日本気象予報士会）、難波良彰（日本気象予報士会）、荒川知子（日本気象予報士会）、岡留健二（日本気象予報士会）

6. 「惑星大気科学の現在」

趣旨：20 世紀後半に、太陽系諸惑星の大気現象の考

察することから出発した惑星大気科学は、各惑星の探査の進展、数値モデリングの本格化、地球流体力学の理論の深化、太陽系・惑星進化との関わりの認識を経て多方向に発展してきたが、現在、数百を超える太陽系外惑星の発見を迎えて、さらに対象と問題意識を広げつつある。2014 年度秋季大会ではシンポジウムとして「惑星大気研究の最前線」が企画されており、惑星大気研究の現状と将来の概要について、基調講演が行なわれる予定である。

当スペシャルセッションでは、このシンポジウムと相補的な内容の幾つかの招待講演を設定し、基調講演の限られた時間ではカバーできない広がりや深さにおいて、惑星大気科学の到達点と将来の課題を展望する予定である。あわせて、惑星大気に幅広くかかわる一般講演も募集し、今後の研究の展開に向けた議論の契機としたい。

世話人：高木征弘（京都産業大学理学部）、今村 剛（JAXA 宇宙科学研究所）、高橋芳幸（神戸大学大学院理学研究科）、中島健介（九州大学大学院理学研究院）

7. 「日本の豪雨・豪雪と黒潮」

趣旨：日本では、梅雨前線に伴う豪雨、台風に伴う暴風雨、日本付近で急発達する爆弾低気圧に伴う豪風雨・豪風雪、およびそれらによる災害が毎年のように発生しており、これらの豪雨・豪雪の予測精度の向上が重要な課題となっている。最近の研究で、日本周辺の海洋がこれらの大気擾乱に与える影響について知見が集積されてきた。本セッションでは、これらの豪雨・豪雪や、原因となる大気擾乱について、日本周辺の海洋の影響、特に黒潮・黒潮続流の影響に着目して、様々な観点から検討したい。まとまった研究のほか、萌芽的研究、現業的な調査・研究、若手による研究の発表も歓迎する。

世話人：児玉安正（弘前大学大学院理工学研究科）、万田敦昌（長崎大学大学院水産）、茂木耕作（海洋研究開発機構）、津口裕茂（気象庁気象研究所）、川村隆一（九州大学大学院理学研究院）、中村 尚（東京大学先端科学技術研究センター）

8. 「室内実験で気象学」

趣旨：今年、瓜生道也先生（九州大学）の25回忌にあたる。瓜生先生は、回転水槽実験装置を用いた気象学的な研究の第一人者であり、その後の室内実験研究の道を示した先駆者である。回転水槽実験などの室内実験は、コンピュータの発展とともに数値実験へと受け継がれながら、現在でも観測や理論を検証するための科学的実験装置として多様性も増している。さらに、可視化技術の進歩により、実験結果の深い解析が可能になっている。装置製作や制御が手軽になったことによって、教育現場などでのデモンストレーションとして利用も増えている。メモリアルにあたる今年、この九州の地で、室内実験を用いた気象に関わる多種多様な実験が集まるセッションを開催し、実験手法や解析方法の新技術の情報交換や議論が出来る場としたい。

世話人：乙部直人（福岡大学理学部）、筆保弘徳（横浜国立大学教育人間科学部）、廣岡俊彦（九州大学大学院理学研究院）、中島健介（九州大学大学院理学研究院）、佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）

9. 「温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT「いぶき」の研究成果と今後」

趣旨：2009年1月23日に打ち上げられた温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT「いぶき」は、5年を過ぎた現在も順調に観測を続けている。これまでに、データ導出手法の改良や導出データの検証を通して GOSAT データの質の向上を図り、それを基に、主要な温室効果ガスである二酸化炭素やメタンの濃度分布とその変動の把握、地域別吸収排出量（収支）の推定と不確実性の低減に関する研究を実施してきた。本セッションでは、まず衛星やセンサーの稼働状況とプロダクトの提供・利用状況を紹介し、これまでの研究の成果について発表を行う。さらに今後の GOSAT の運用計画や、GOSAT 後継機の計画についても対象とする。そのため、GOSAT の短波長赤外や熱赤外の観測データを利用した基礎・応用研究のみならず、関連する地上・航空機観測や GOSAT 搭載の雲・エアロソルセンサデータの利用、データ同化・大気輸送モデル・炭素収支推定に関わる研究、さらに将来計画など、幅広い分野にわたる発表を募集する。

世話人：横田達也（国環研）、川上修司（JAXA）、今須良一（東大大気海洋研）、中澤高清（東北大）、中島映至（東大大気海洋研）

10. 「全球降水観測計画「GPM」コア衛星初期データと新たな降水観測」

趣旨：全球降水観測計画「GPM（Global Precipitation Measurements）」は、日米（JAXA/NASA）を中心とした各国宇宙機関の協力で進められている。日米共同開発の GPM 主衛星は、2014年2月28日に種子島宇宙センターから打上げられた。本衛星には JAXA と情報通信研究機構が開発した二周波降水レーダ（DPR）が搭載されている。熱帯降雨観測衛星 TRMM 搭載のレーダと同様の Ku 帯に固体降水にも感度を持つ Ka 帯を加えて、北緯 65 度から南緯 65 度までの降水の 3 次元観測を可能にする。GPM は、この DPR 観測を核に、マイクロ波放射計搭載のコンステレーション衛星（GCOM-W1 を含む）が連携し、ほぼ全球の降水を高頻度高精度で測定する計画である。本セッションでは、GPM 主衛星から得られた初期的なデータを検討する予定である。また GPM によって期待される新たな降水観測について議論し、より多くの気象研究および応用研究への有効利用を促進することを目的とする。

世話人：沖理子（宇宙航空研究開発機構）、高藪縁（東京大学大気海洋研究所）、中村健治（獨協大学）、井口俊夫（情報通信研究機構）、牛尾知雄（大阪大学）、青梨和正（気象研究所）

11. 「ハイパフォーマンスコンピューティングによる超高精度メソスケール気象予測」

趣旨：2012年度気象学会秋季大会において、スペシャルセッション「次世代スパコンが拓く超高精度メソスケール気象予測」を開催し「京」に代表される次世代のスパコン利用を念頭において、メソスケール顕著現象の高精度予測と高解像度大気モデルを用いた基礎研究に関する当時の到達点と課題について確認した。HPCI 戦略プログラム分野3のサブ課題「超高精度メソスケール気象予測の実証」では、「領域雲解像4次元データ同化技術の開発」、「領域雲解像アンサンブル解析予報システムの開発と検証」、「高精度領域大気モデルの開発と

それを用いた基礎研究」の3つの科学目標に沿って、2011年から、京の計算資源をメソスケール気象予測研究における科学的ブレークスルーとして活用するための研究を行ってきた。2012年10月のスパコン「京」の共用開始から約2年を経て、このセッションでは、上記研究の進捗について報告するとともに、他の計算機も含むハイパフォーマンス

コンピューティングインフラでのメソスケール気象研究の現状と将来について議論したい。HPCI 戦略プログラム以外からの投稿も歓迎する。
世話人：齊藤和雄（気象研究所/海洋研究開発機構）、露木 義（気象研究所）、瀬古 弘（気象研究所/海洋研究開発機構）、木村富士男（海洋研究開発機構）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の条件を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の

講演を認める（大会予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、スペシャル・セッションに関しては各世話人の判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2014a@mri-jma.go.jp）に申し込んで下さい。

申込期限：2014年7月1日（火）

記入事項：1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先

3. 希望日時・開催場所

4. 予想参加人数

5. 希望する支援内容

VIII. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の斡旋を予定しています。利用を検討されている方はお気軽に下記担当者にご連絡ください。なお、保育施設の詳細については大会ホームページに掲載する予定です。

です。

連絡先：川野 哲也（九州大学大学院理学研究院）

E-mail : hoiku2014@geo.kyushu-u.ac.jp

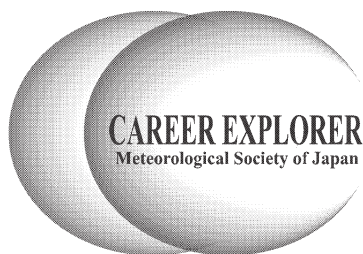
TEL : 092-642-2676

IX. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。

2. キャリアエクスプローラーロゴ



大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿お

よび講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演タイトルの左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演タイトル付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。